

ACT!

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2025年4月号

急

じんえん
性腎炎で集中治療室 (ICU)
に入院中のマリアムさん
(右)と、小児科医の金子光
延 (左)。金子が「頭痛が消えたな
らひと安心。順調に回復していま
すよ。質問があれば何でもどうぞ」と
現地スタッフの通訳を介して明るく
話しかけると、マリアムさんも「早
く帰って、家族に会いたいな。お母
さんのお手伝いもしてあげたいし」と
思わずにっこり。



© MSF

取材報告

アフガニスタンへ。

2021年8月のタリバンによる実権掌握から約3年8カ月。MSFは現地に留まり、医療活動を続けてきました。アフガニスタン西部のヘラート州から現在の状況をお伝えします。



© MSF

赤

ちゃんに触れて、抱っこしてあげてね。赤ちゃんの発達に欠かせないし、母乳の出も良くなりますよ」。看護師のチームと共に、下痢と栄養失調で入院中のザフラちゃんのお母さんにアドバイスする看護師の吉田ゆかり (左から2人目)。入院栄養治療センターでは、退院後の栄養失調の再発を防ぐため、お母さんの授乳指導に力を入れる。

※現地の人名はすべて仮名です。



アフガニスタンへ。

取材報告

ヘラート地域病院を訪ねて

取材・撮影＝国境なき医師団日本 事務局職員・中川玲子

待合室は朝からトリアージ※¹を待つ親子連れでいっぱい。子どもの泣き声がたえず聞こえてきます。力強く、時には胸を締め付けられそうなほどか細く。連日およそ1000人以上が列をなし、ほとんどが数時間から数日の長い道のりをたどって来ます。

ヘラート地域病院はアフガニスタン西部で最大の公立病院で、命に関わる重症患者を周辺地域から受け入れています。

国境なき医師団（MSF）は2018年からヘラート州で活動を始め、現在はこの病院の小児科でトリアージや救急、集中治療室（ICU）、はしか病棟、そして5歳未満の子どものための入院栄養治療センターを担っています。

2024年、トリアージを行った患者は前年に比べて19.3%、ICUの入院患者は31.5%増加。ICUや栄

養治療センターのベッドは常に満床です。「夏は下痢と栄養失調、氷点下になる冬は肺炎や気管支炎などの患者が急増し、一つのベッドを2～3人で使う状況が続きます」と小児科医の金子光延は表情を曇らせます。「重症化してから、ようやく病院に来るんです。そもそも栄養状態が悪いから病気にかかりやすく、こじらせやすい。それなのに、家が遠い、交通費を払えないなどの理由で来るに来られない」

保健医療体制を むしばむ経済危機

「日々の食事にも事欠く人びとにとって、誰でも無料で医療を受けられるMSFは最後の砦です」と金子。アフガニスタンでは、保健医療体制の慢性的な予算不足により、人びとの医療ニーズに応えきれない状況が長く続いてきました。

2021年にタリバンが復権してからは、一部の国際機関や支援団体が撤退。在外資産の凍結に代表される国際的な制裁措置の影響もあって、財政悪化に拍車がかかっています。経済危機が続く中、公立の医療機関はスタッフの給料を工面できず、医薬品を含む必要な物資すら不足する事態に陥っています。

国連開発計画によれば、2022年の時点でアフガニスタンの人口の



文字が読めない人のため、診察室までの道を色で示している。赤は最も緊急、黄色は緊急、青は感染症を表す。



カラフルな絵があちこちに描かれている小児ICUの入院病棟。



約85%が貧困状態にあります※²。人びとは高い失業率や食料価格の高騰に暮らしを脅かされ、子どもたちも貧困のしわ寄せを受けています。

栄養失調とそれに伴う発育不良は全土でまん延し、赤ちゃんにまで及んでいます。背景には、経済的な困窮に加えてさまざまな要因があります。たとえば、妊娠中から授乳期のお母さんが、しばしば栄養失調や心身の不調に陥っており、母乳が出にくいこと。教育を受けておらず、母子保健や栄養管理などの正確な知識がないこと。そして、哺乳量不足や早すぎる離乳食開始による消化不良などで赤ちゃんが体調を崩しても、かな

無償で薬を提供する薬局。一目で薬局とわかるように、目立つ所に薬の絵が大きく描かれている。建物の代わりに、コンテナを活用している。



待合室で受け付けを済ませた患者は、トリアージへ。問診や基礎的な検査を受ける。乳児の場合は体重計（手前）や身長計を使った身体測定も受ける。

待合室では1日2回、母乳育児や衛生管理などの健康教育を行う。



か医療を受けられないこと……。

栄養学や衛生管理など 「知る」を力に

MSFの栄養治療センターでも患者の約40%は生後6カ月未満の赤ちゃんです。看護師の吉田ゆかりは、現場での取り組みについてこう説明します。「ここでは6カ月未満の赤ちゃんのお母さんに母乳の栄養価や正しい授乳姿勢、母乳を増やす方法などを伝え、母乳育児を応援しています。6カ月以上の場合は母乳と離乳食を合わせた栄養の取り方を指導します」

補完的な役割を担うのが健康教育です。担当者は病室や待合室などを毎日訪れ、母乳育児や食品の

栄養、衛生管理などについてお母さんや付き添いの家族にわかりやすく説明します。たとえば、妊娠中や授乳中のお母さんには、母体や赤ちゃんに必要な栄養と、栄養を含む野菜や果物などを具体的に挙げて紹介します。健康教育マネージャーのアミナは言います。「選ぶのは彼らです。私たちの仕事は目の前の課題と選択肢を伝え、より良い選択をサポートすること」

地域の医療機関との連携強化や子どもの発達のサポートなど栄養失調の分野だけでも課題は山積みです。それでも、子どもたちの健やかな成長の先にアフガニスタンの平和な未来があると信じて、私たちはこれからも歩み続けます。

※1 傷病の重症度や緊急度によって治療の優先順位を決めること。

※2 United Nations Development Programme (2023). AFGHANISTAN SOCIO-ECONOMIC OUTLOOK

アフガニスタンでの取材に 寄せて

戦乱を生き延びた犬チョコピとの出会いや取材後記、
プレゼント情報など小話の詰め合わせをどうぞ。

私が取材
しました



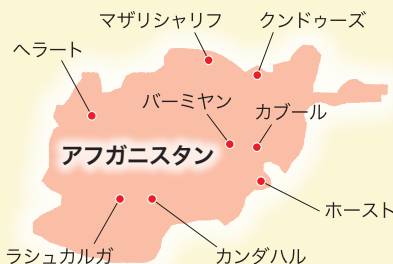
看護師の吉田ゆかりに取材する
事務局職員の中川玲子(左)。

● 国境なき医師団(MSF)と アフガニスタン

40年以上にわたり、紛争や政治的混乱が
続くアフガニスタン。ソビエト連邦軍が侵
攻した翌年の1980年以来、MSFは現地で
医療活動を行い、証言活動にも力を入れて
きました。

現在は首都カブールの代表事務所に加え、
全国7州の7都市に活動拠点を置いていま
す(下図)。活動内容は安全な出産や小児医
療から外傷治療、多剤耐性結核の治療と予
防まで多岐にわたりますが、妊産婦や新生
児死亡率の削減には特に力を入れています。
また、全国的に地震や洪水が多いため、す
べての活動拠点が協力して緊急援助体制を
整備。救援物資も常に備蓄しています。

【MSFの活動拠点一覧】



● 戦乱を生き抜き、いまは MSFの愛すべき仲間に

右写真の犬の名は、チョコピ。人の声を聞き
つけては近寄ってきて、ごろり。会話の輪の
近くには必ずいるわんこです。2015年、クン
ドゥーズにあるMSFの病院が爆撃されて一時
撤退が決まった時、カブールへ避難してきた
チョコピ。それ以来、カブールの宿舎を訪れる
スタッフたちの心を和ませてくれています。



カブールの宿舎で暮らすチョコピ。もとはクン
ドゥーズにいたが、2015年、当時のスタッ
フに連れられてカブールへやって来た。

取材後記

アフガニスタンはMSF日本から派遣する
スタッフの人数がとても多い国の一つ。取
材当時だけでも、ヘラートの金子と吉田
に加えてプロジェクト管理者や人事・経理
担当者、理学療法士など5人が活動してい
ました。

一方、現地の人びとも日本に親しみを感
じているようです。みんな日本から来た歴
代のスタッフたちを懐かしんでは、「いつも
ありがとう」と支援者さまへの感謝の言葉
を話してくれました。温かい思いが両国を確
かにつないでいることを実感しました。

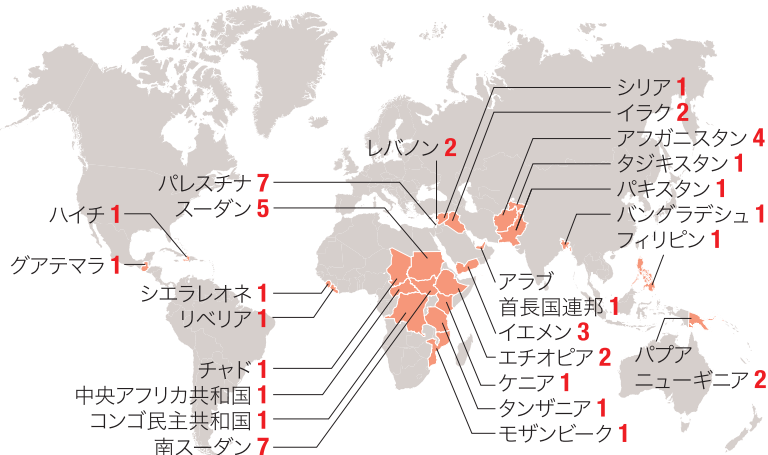


Present
ご回答者さまのうち
抽選で1名に
お土産をプレゼント

今号の『ACT!』はいかがでしたか？
アンケートで皆さまのご意見・
ご感想をお聞かせください。
**締め切りは
5月31日(土)中です。**



日本からのスタッフ派遣状況 25の国と地域50人(2025年2月3日現在)



MSF連絡帳

ポッドキャストの配信を始めました!

MSFの海外派遣スタッフのトークが聞けるポッド
キャスト、『国境なき医師団 BASE TALK — 私が
国境を越える理由』を始めました。子どもの頃の夢
から現地での苦悩や喜びまで、スタッフの生の声
を、ぜひお聞かせください。

詳しくは
こちらから



住所変更は便利なマイページで

春は転居シーズンですね。お引越しをされました
ら、ぜひウェブサイトの「マイページ」から、住所変
更のお手続きをお願いします。本ページ下部の二
次元コードからアクセスしていただけます。

© Ayano Kinoshita



ニュース
レター **ACT!** 2025年
4月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

平日9:00~18:00 / 土日祝日、年末年始休業

※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は
上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

※2025年2月の情報を基にしています。
最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。



マイページは
こちらから

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通

平日10:00~17:00 / 担当: 荻野、今尾、小芝

国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp

